願いは叶う

令和２年度
卒業生からのメッセージ
－第 12 号－

「未来に向かって」

出身校　幕別町立札内東中学校

札幌学院大学人文学部人間科学科　豊　吉　晴　海
（吹奏楽部）

１２月６日、私が志望する札幌学院大学から合格通知をいただきました。合否が分かったその瞬間、未来までの道のりに日が差したような気持ちになりました。

私の祖母は、私が小さい頃から老人ホームを経営し、社会福祉士として働いています。そのような祖母の姿を見て育ち、いつしか多くの人の役に立てる福祉の仕事に魅力を感じるようになりました。そして、高校３年間、介護福祉に関する様々な体験や学習を通して、福祉の奥深さを知り、より福祉について学びたいと思うようになりました。特に、３年次の介護実習は、「社会福祉士になる」という私の現在の目標を決める引き金となりました。

３年次の介護実習では、対象の利用者様が快適に生活を送ることができるよう介護計画を作成し、その実施と評価を行うというものでした。私は、計画作成の対象となる利用者様を施設内で笑顔がなかなか見られず、生活に対する意欲が低下している女性に決めました。初めは何を話してもすぐに会話が途絶えてしまうことが多く関わることが難しかったのですが、「その方の笑顔が見たい」という思いを強く持ち続け取り組みました。その結果、実習の終盤では声をあげて笑う姿が見られ、その笑顔を見た瞬間、これまでにない達成感と喜びを強く感じました。そのような体験から、より多くの人の力となり利用者様の笑顔を促せる社会福祉士になりたいと思うようになりました。

介護実習が終わってから、社会福祉士を目指すためにどのような大学が良いのか迷いましたが、福祉科の先生方の出身校である札幌学院大学を知り、深く調べていく中で興味を持ち、受験先に決めました。大学入試のために課題文・個人面接の試験対策を行いました。初めはいろいろな学習をした方が良いと考え、面接や課題文、国家試験勉強などがむしゃらに学習していました。しかし、結果がついてこず、出来ないことに焦りと悔しさを感じ、何をやるべきなのかもわからなくなるほど苦しい毎日でした。そのような時、先生方は私の能力を把握した上で優先順位をつける手助けしてくださりました。それを機に、今まで私が抱えていた課題や困難が減り、目指すべきところを明確にすることが出来ました。試験当日は不安と緊張に押しつぶされそうでしたが、それまで積み上げてきた成果を発揮することができ、自信へとつながりました。この過程があったからこそ、今回の合格を得ることができ、更には奨学金の試験にも受かることが出来たのだと思います。

私は未来に向かうためにたくさんの人に助けてもらいここまでの道を獲得してきました。これまで力を貸してくださった先生方や家族にとても感謝しています。辛いことも多くありましたが、初めの一歩を踏み出し努力していくことで、その成果が実り今後の未来に向かっていくのだと感じました。皆さんも決めた進路を最後まで諦めず、将来に向けて頑張ってください。陰ながらお応援しています。

「周りの人の偉大さ」

出身校　帯広市立帯広第二中学校

旭川厚生看護専門学校　松　野　凜　花

（バレーボール部）

１２月１３日、志望する学校から合格通知をいただきました。このように良い結果を頂くことができたのは、多くの人の支えがあったからこそだと思います。

私は母が看護師ということもあり、幼い頃から多くの人の悩みや苦痛を和らげようと親身に寄り添い、患者さんのために最善を尽くそうとする仕事に憧れを抱いていました。スポーツを行っていた私は高校に入ってから怪我が多くなり、焦っていた自分に声を掛けてくださった看護師さんのように、怪我や病気で苦しんでいる人の役に立ちたいと思うようになり徐々にやりたいことが明確になりました。

看護師を目指す過程で、人の命を扱い、失敗は許されない過酷な仕事であると聞き、他の進学先や就職先にしようか悩むこともありました。しかし、私の話を聞き後押しして下さった先生、家族のお陰で自信を持って試験に臨むことができました。

試験では小論文、集団面接、個人面接がありました。小論文では伝えたいことが上手く言葉にできず、何度も挫けそうになることもありました。しかし、私が最後まで頑張り続けることができたのは、バレーボールがあったからです。

私は、江陵高校の先生にバレーボールを教わりたいと思い入学しました。入学前に思い描いていた高校生活とは違い、楽しいバレーボールよりも、つらい過酷なバレーボールの方が多かったです。また、顧問の先生が転勤になり、最後まで一緒にバレーボールをできないということの悲しみと、もしかしたら自分にできたことがあったのかもしれないと悔やみ、部活動を辞めることも考えました。しかし、試合で勝った時の嬉しさは計り知れないほどで、辞めたいというよりも勝ちたいという気持ちが大きく、周りの人の応援もあり、高体連まで部活動を続けられました。この過程の中で、私は多くのものを得たからこそ、進路決定に向けた準備の厳しさにも耐えることができたのだと思います。

江陵高校に入学し、恩師と出会えたことで、仲間の大切さを学ぶことができました。恩師ともう一度会って、「ありがとうございました」と感謝の気持ちを伝えたいです。また、部活動に所属させてくれた両親にもいつか恩返しをしたいと思っています。そして、私のことを厳しく、毎日指導してくださった先生、同じ道を目指す仲間、周りで支えてくださった友人がいたから、旭川厚生看護専門学校に合格することができたのだと考えます。本当に感謝してもしきれない思いです。私は恵まれている人生だと改めて実感することができました。

最後に私から後輩の皆さんに言えることは、何事も最後まで諦めずに、自分の可能性を信じ続けること、たとえ大きな壁にぶつかったとしても、落ち着いて周りを見れば支えてくれるたくさんの人が居るということを忘れないで欲しいということです。多くの人に常に感謝の気持ちを持って、自分のやりたいことを見失わず頑張って欲しいと思います。心から応援しております。

「プロセス」

出身校　本別町立本別中学校

酪農学園大学食と健康学類　髙　野　藍　加

（硬式テニス部）

私はこの度１２月１３日に、酪農学園大学への進学が決まりました。私は、中学生の時から将来教師になるという目標を持っていました。小学生から続けてきたテニスにも力を入れたいと考えていたので、公立高校への進学をしたいと思っていたのですが、結果が伴わず、併願校であった江陵高校に進学を決めました。

入学当初は自分の行きたかった高校へ通うことができずショックを受けていましたが、担任の先生が江陵に入学しても新しい気持ちで進路を実現させようと言ってくださり、学校生活や進路を前向きに捉えられるようになりました。また、志望校が３年生の夏頃まで決まらず、とても焦りを感じていました。大学受験に不安を抱えながら進路について動きだす中で、国立大学への進学を勧められましたが、当時の私にはとてもプレッシャーに感じてしまい、テニスとの両立に自信がありませんでした。本当の事を言うのであれば、受験に失敗したくないという気持ちもありました。また、学校生活の中で教師になるのをやめようと考えた時期もありました。ですが、悩んでいる時に私が信頼している先生から参考書を頂いたり、自分自身どうしていいかがわからない時に親身になって相談に乗ってくださいました。そして考査に向けて勉強する際などで、アドバイスやご指導を頂きました。自分はどこで何を学びたいかを考えた時に、教職コースでの学習や食品の流通や製造の専門的な勉強もしてみたいと考え、酪農学園大学を受験しました。受験する際には、先生方に毎日自己推薦書や面接練習等、親身になって最後まで助言してくださり支えていただきました。

このような時間を過ごして私は進路や勉強、学校生活で生徒の立場になって困った事やわからない事を懇切丁寧に最後まで導くことができる私の理想の教師を目指していきたいと考えるようになりました。受験を控えている私に友達が応援の言葉をかけてくれたり、中学校で教員になりたいと思わせくださった先生方はもちろんのこと、高校に入学後ももう一度教員を目指すたくさんのきっかけをくださった先生方には感謝しかありません。本当にありがとうございました。

後輩の皆さんへ。物事は結果がつきもので、“結果がすべて”という言葉にこだわっていた自分がいました。自分が思い描いていた結果になることもありますが、そうではないこともたくさん経験してきました。もちろん良い結果が欲しいですが、それまでに“どれだけの努力や学びがあったか”が大事だと思います。これから先様々なことがあると思います、部活動で培ってきた事や学校生活を何気なく送るのではなく、支えてくださる人に感謝の気持ちを忘れず、自分自身の信念を曲げずに頑張ってください。応援しています。

「トライトライトライ」

出身校　帯広市立南町中学校

社会福祉法人真宗協会帯広慈光学園　楠　瀬　　和
（福祉クラブ）

私はこの度、社会福祉法人真宗協会帯広慈光学園に就職内定をいただきました。私は姉が江陵高校福祉科を卒業しており、姉の在学中には介護実習の話や授業での話をよく聞いていました。そのことがきっかけで福祉の仕事に興味を持ち、自身も福祉科への入学を決めました。

高校３年間様々な活動を通して、障害のある方と関わる機会が多くありました。特に、２年次に授業の一環として行った帯広養護学校の生徒さんとの交流学習などでは、ミニ運動会の企画をしました。全員が平等に安心して行えるように図を多く使用したり、タイムテーブルを常に確認できるよう掲示するなどの工夫をし、養護学校の生徒の皆さんに楽しんでもらうことができました。その過程から、障害について学んだことをきっかけに障害者支援の仕事に興味を持ち、担任の先生に障害者支援施設の見学に連れて行っていただきました。しかし、障害の分野について専門的な知識がないという点から就職先がなかなか決まらず、また、クラスの友人が次々と内定をいただいている状況で「自分も早く就職先を決めなくては」という焦りから障害分野への就職を一度諦めようと考えました。そんな時に担任の先生がもう一度施設見学に連れて行ってくださり、採用担当の方とお話をし、念願の内定をいただくことができました。このような結果に至ったのも、履歴書の志望動機を一緒に考え、何度も添削していただくなど、親身になって相談に乗ってくださった先生方の支えがあったからこそです。また、就職活動の解禁である９月から内定をいただいた12月まで障害分野への就職を願い続け、諦めなかったことが夢の実現に繋がったのだと思います。

今後は、進路で悩んだ時や落ち込んだ時に近くで支えてくださった先生方や友人への感謝の気持ちを忘れず、周りから必要とされるような立派な社会人になれるよう精一杯頑張っていきたいと思います。

私自身、進学するのか就職するのか１年次からたくさん悩みました。また、就職に進路を決めてからも就職先で悩み、決定がとても遅くなってしまいました。しかし、たくさん悩んで自分で出した結果だからこそ後悔はしていませんし、焦ってしまったときに諦めなくて良かったと思っています。　これから進路を決定するみなさんもたくさん悩むと思いますが、後悔しないような結果となるように頑張ってください。応援しています。

「助け合い、そして感謝」 出身校　幕別町立札内東中学校

十勝池田町農業協同組合　杉　　亮　兵
（書道部）

私はこの度、十勝池田町農業協同組合から内定をいただくことができました。私は当初、目指しているものがなく、進路を決めなくてはいけない時とても苦労しました。最初に志望していた就職先の採用が決まらず、次の受験先を決めるためにいろいろな求人票を見ていましたが、やりたい仕事が見つからず、焦りや不安でとても悩んでいました。そんな時に、卒業生で部活動の先輩から農協の話をお聞きしました。いろいろな話を聞いていく中で、私は地元の愛が強く、農協の仕事を通じて十勝の発展に繋がるような仕事をしたいと強く思い、受験を決め、履歴書の作成や面接練習に取り組んでいきました。特に面接練習はとても苦労しましたが、先生方のサポートや友人、両親のおかげでなんとか乗り越えることができました。

就職試験当日、試験会場に近づくにつれて、緊張し、不安な気持ちしかありませんでした。ですが、今まで取り組んで来たことを思い出すことで自信に変えることができ、万全の状態で試験に臨むことができました。そして無事に内定をいただくことができたのも、私のために貴重な時間を割いて頂いた、先生方の支えがあってこそだととても感謝しています。内定決定までの道のりを振り返ると、私一人の力ではなく、周りの方々の協力があったからこそだと心の底から思いました。今後社会人になり、今まで以上に辛い思いをすることがあるかもしれませんが、江陵高校の学校生活や部活動で得たものを糧に、社会に貢献できるように努力していきたいと思っています。

後輩の皆さん、私と同じようにやりたいことが見つからず、なかなか進路を決められず、悩む人もたくさんいると思います。進路決定までの道のりは多くの葛藤があると思いますが、親や先生方、友人、頼れる人が周りにいます。そして後悔のない進路を目指して頑張ってください。江陵高校の先生方や両親など日頃から支えてくださった人への感謝の気持ちを大切に進路実現を目指してください。後輩の皆さん、陰ながら応援しています。

「努力と支え」

出身校　音更町立緑南中学校

株式会社明治十勝工場　有　澤　憂　真

（サッカー部）

私はこの度、株式会社明治十勝工場から内定を頂きました。私は中学生の頃からずっと自分の好きな事、好きな物に携われる仕事に就きたいと考えていました。就職に向けて求人票を見て考えていると明治十勝工場の求人に目が止まりました。私は幼少の頃から明治製品をよく口にしており、とても大好きでした。特に「果汁グミ」や「飲むヨーグルト」などが好きでした。将来は私が昔から好きだった食べ物を次は自らの手で作り、私のように多くの人を笑顔にしたいなと強く感じました。この時、自分自身が進む道、将来の目標が決まったように思いました。それからは、毎日のように明治十勝工場の事を調べ、会社についてさらに詳しく知りたいと思うようになりました。職場体験等を通して、今まで知らなかったことや、気づかなかったことを知ることができ、より一層この職場で働きたいと思いました。試験当日は、緊張や不安でいっぱいでしたが、今まで私の面接指導をしてくださった先生方、お世話になった色々な方々のためにしっかりと悔いのないようにしようと思い試験に臨みました。そして、努力の成果もあってか、後日内定を頂きとても嬉しかったです。今までの努力が報われたと感じたのと同時に、お世話になった方々のおかげでここまでこられたことを実感しました。

私から後輩の皆さんに言えるのは、何事も一人でどうにかできることは絶対にないということです。両親・先生方・友人等色々な人の支えがなければ失敗するし、うまくいかないことがわかりました。これから進路についてたくさん悩むことが出てきますが、自分自身を信じ、色々な人と協力し合い、感謝しながら頑張ってください。

「日々成長を」

江陵高等学校　進路指導部長　山　崎　　徹

今年度、進路指導部長の立場を任されたが、十分に行き届いた仕事ができなかったと個人では反省している。しかし、進路指導においては、何よりも、生徒一人ひとりが、そしてその保護者の方々の希望を叶えられることができたかが重要であるということに改めて気付かされた一年であった。例年とは違う就職状況であることから、予想外の結果が多く、生徒たちも一喜一憂する場面があったが、各々が努力を重ね内定を掴み取ってくれた。また進学希望者は、ＡＯ入試や推薦入試に向けた面接練習や小論文対策に、手を抜くことなく真剣に取り組む姿勢が見受けられ、成長を感じた。私自身は力不足であったが生徒の頑張りや保護者の方々のサポート、教職員の協力のお陰で概ねほとんどの生徒が進路を決定できたことに感謝している。

進路決定はあくまでもスタートに過ぎず、本当の勝負はこれからである。新天地では様々な困難が待ち受けている。おそらく、沢山の失敗を重ねることであろうがそれが大切なことでもある。人はみな、その失敗の中から学び、成長していく。学生であっても、社会人であっても同じことである。松下電器産業の創設者、松下幸之助氏の言葉に、「失敗したところでやめるから失敗になる。成功するまで続けたら、それは成功になる。」というものがある。偉人と呼ばれる先人たちも多くの失敗を繰り返し、諦めることなく挑戦し続けることで大きな成功を手にしている。だが、決して皆さんに大きなことを成し遂げてほしい、という訳ではない。仕事に大きいも小さいもない。周囲の人々と協力し、自分にできる最大限のことを常に全力で取り組む、それが最も大切である。どんな困難にも立ち向かい、失敗を恐れず挑戦し続ける人であってほしい。

最後に、二年生は本校最後の生徒として、代々受け継がれているものを継承してもらいたい。江陵高校という素晴らしい学校があった、という歴史を刻むとともに、自らの思い描く未来に近づけるよう、今から入念な準備をし、進路決定に向けて走り出してほしい。